

# 令和5年度(2023) 水道事業会計決算概要

## 1. 概況

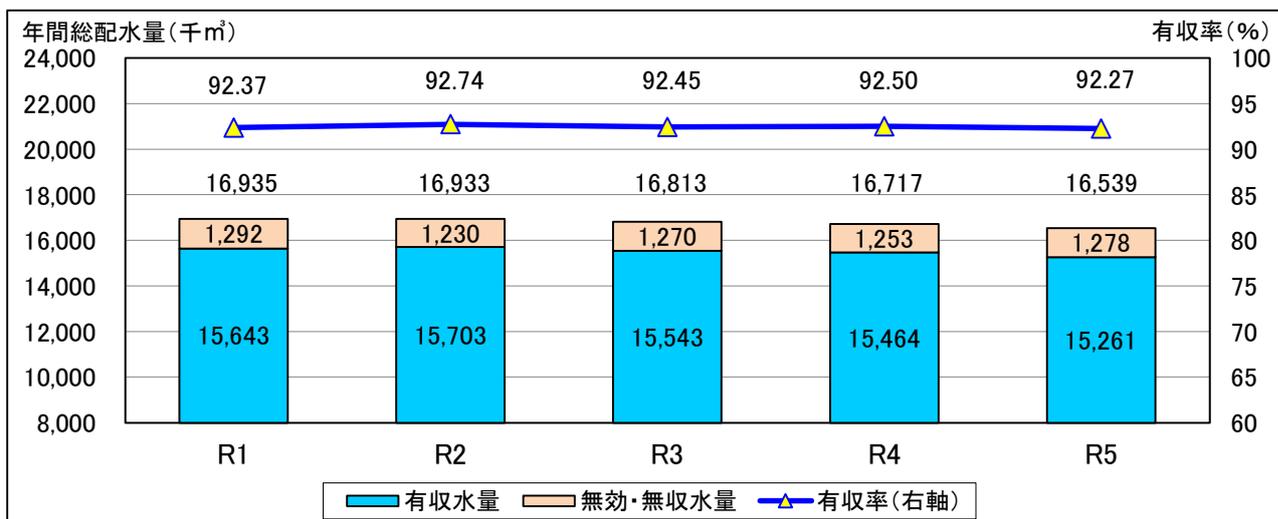
令和5年度は、「安全で安心な水を安定供給し続ける水道」を基本理念とする出雲市水道事業ビジョンに基づき、施設の更新や耐震化等の取組をさらに進めました。

業務面では、給水戸数は増加しましたが、給水人口は減少しました。また、年間総配水量、年間総有収水量及び一日平均配水量も減少しました。

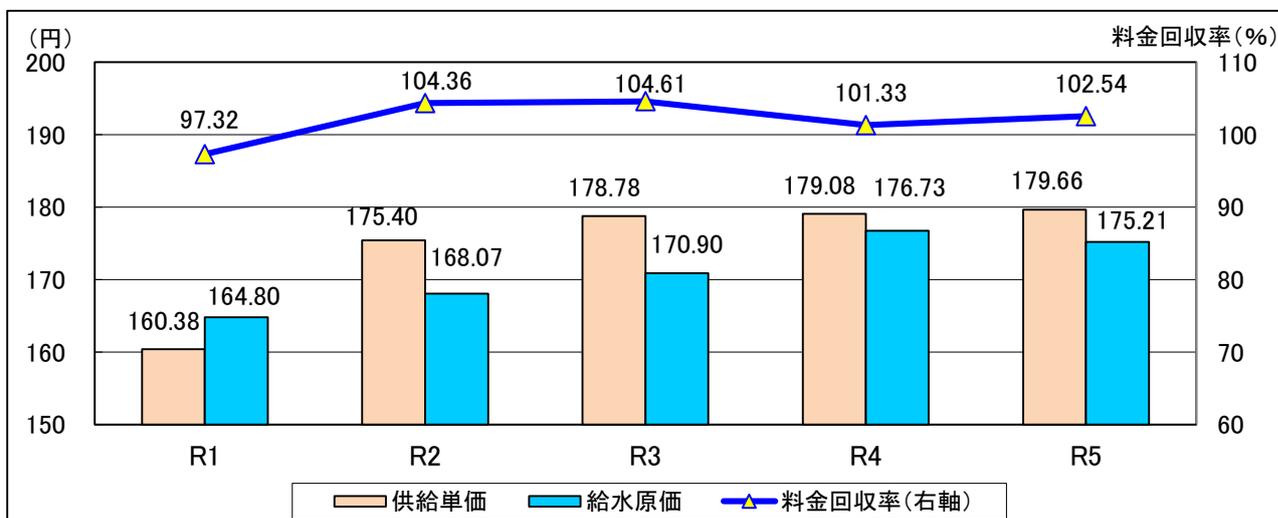
施設面では、老朽化した施設の更新や耐震化を推進し、災害に強い施設の構築を進める一方、安全で安定した水源を確保するため、新規水源(来原系)の開発や出雲・平田地域の水運用に係る連絡施設の整備を進めました。

区分	令和5年度決算	令和4年度決算	増減
給水戸数(戸)	58,016	57,417	599
給水人口(人)	140,920	141,772	△ 852
年間総配水量(m <sup>3</sup> )	16,539,270	16,717,365	△ 178,095
年間総有収水量(m <sup>3</sup> )	15,260,591	15,463,954	△ 203,363
一日平均配水量(m <sup>3</sup> )	45,189	45,801	△ 612

## 2. 年間総配水量と有収率の推移



## 3. 給水原価と供給単価の推移



※ 供給単価 = 給水収益 / 年間総有収水量  
 給水原価 = (給水費用 - 長期前受金戻入) / 年間総有収水量  
 料金回収率 = (供給単価 / 給水原価) × 100

#### 4. 収益的収入及び支出

(単位:千円 税抜)

区 分	令和5年度 決算	令和4年度 決算	令和3年度 決算	令和5年度決算と 令和4年度決算 との差
水道事業収益	3,331,395	3,386,329	3,580,274	△ 54,934
営業収益	2,806,275	2,834,726	3,010,172	△ 28,451
水道料金	2,741,754	2,769,342	2,778,770	△ 27,588
受託工事収益	0	0	168,064	0
原因者負担金ほか	64,521	65,384	63,338	△ 863
営業外収益	525,100	551,547	570,036	△ 26,447
加入金	65,310	64,040	62,950	1,270
他会計繰入金	49,969	61,951	75,378	△ 11,982
長期前受金戻入ほか	409,821	425,556	431,708	△ 15,735
特別利益	20	56	66	△ 36
水道事業費用	3,073,117	3,138,977	3,251,521	△ 65,860
営業費用	2,874,852	2,928,381	3,019,207	△ 53,529
受託工事費	0	0	183,893	0
職員給与費	278,341	281,902	283,916	△ 3,561
委託料	393,473	394,194	388,950	△ 721
動力費	253,193	274,219	205,870	△ 21,026
薬品費	35,107	28,325	27,005	6,782
修繕費	146,371	151,286	157,417	△ 4,915
減価償却費	1,504,937	1,553,052	1,556,807	△ 48,115
資産減耗費	91,711	77,701	54,601	14,010
受水費ほか	171,719	167,702	160,748	4,017
営業外費用	196,487	210,311	230,398	△ 13,824
支払利息	146,108	156,257	173,344	△ 10,149
その他営業外費用	50,379	54,054	57,054	△ 3,675
特別損失	1,778	285	1,916	1,493
<b>営業利益</b>	<b>△ 68,577</b>	<b>△ 93,655</b>	<b>△ 9,035</b>	<b>25,078</b>
<b>純利益</b>	<b>258,278</b>	<b>247,352</b>	<b>328,753</b>	<b>10,926</b>

収入は3,331,395千円、支出は3,073,117千円となり、収入支出差引で258,278千円の純利益となりました。

前年度と比較すると、収入は、水道料金及び他会計繰入金の減少などにより54,934千円の減額となり、支出は、薬品費が増加した一方で、減価償却費及び動力費の減少などにより65,860千円の減額となりました。

この結果、純利益は前年度より10,926千円の増額となりました。

## 5. 資本的収入及び支出

(単位:千円 税込)

区 分	令和5年度 決算	令和4年度 決算	令和3年度 決算	令和5年度決算と 令和4年度決算 との差
資本的収入	1,054,481	894,996	927,324	159,485
企業債	500,000	300,000	300,000	200,000
国庫支出金	550	0	18,780	550
工事負担金	142,290	132,115	162,690	10,175
他会計負担金	7,391	13,059	14,025	△ 5,668
他会計繰入金	404,250	449,822	431,829	△ 45,572
資本的支出	3,106,876	2,415,387	2,488,479	691,489
建設改良費	2,231,714	1,548,605	1,655,432	683,109
拡張事業	699,498	92,760	355,526	606,738
改良事業	1,506,211	1,402,915	1,276,043	103,296
給水施設費	5,855	4,801	5,497	1,054
車両購入費	5,092	16,858	3,046	△ 11,766
機械器具備品購入費	14,987	31,271	15,320	△ 16,284
土地購入費	71	0	0	71
(建設改良費の内訳)				
工事請負費	1,958,520	1,266,642	1,319,766	691,878
職員給与費	137,181	140,250	115,915	△ 3,069
委託料ほか	110,007	88,783	195,888	21,224
給水施設費ほか	26,006	52,930	23,863	△ 26,924
企業債償還金	875,162	866,782	833,047	8,380
収支不足額	2,052,395	1,520,391	1,561,155	532,004

収入は1,054,481千円、支出は3,106,876千円となり、収入支出差引で2,052,395千円の収支不足となりました。

前年度と比較すると、収入は、企業債及び工事負担金の増加などにより、159,485千円の増額となりました。支出は、前年度からの繰越事業の増加に伴い工事費が増加したことなどにより、691,489千円の増額となり、この結果、収支不足額は前年度より532,004千円の増額となりました。

なお、不足額は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金及び建設改良積立金で補てんしました。

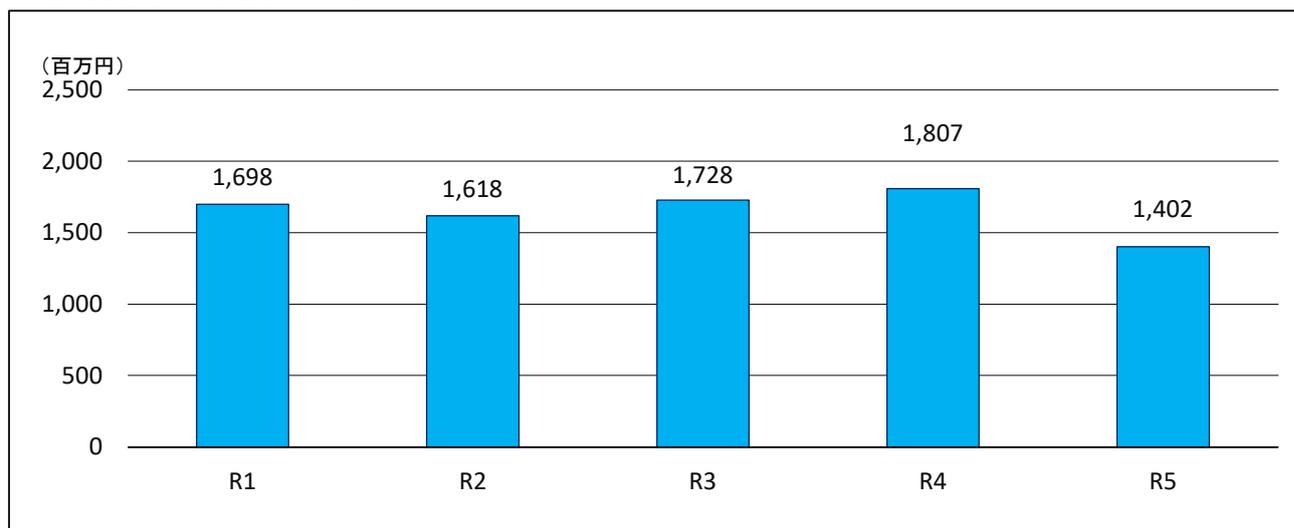
### 【拡張事業】

主なものとして、「国道9号姫原西交差点～消防本部北交差点配水本管布設工事」「西林木町外島根県立大学付近配水管布設替工事」など総額699,498千円で実施しました。

### 【改良事業】

主なものとして、「大津町来原ほたる橋導水管布設替工事(その2)」「灘分第3水源地取水施設更新工事(その2)」など総額1,506,211千円で実施しました。

## 6. 留保資金年度末残高



令和5年度末の留保資金残高は、資本的収支の収支不足額を補てんした結果、1,401,846千円となりました。

## 7. 経営指標

(単位:%)

項目	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	105.54	110.44	110.17	107.89	108.47
有形固定資産減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$	41.74	42.34	43.71	45.27	46.37
管路経年化率	$\frac{\text{法定耐用年数を超過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	26.39	28.97	31.34	33.04	34.09
管路更新率	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	0.63	0.67	0.86	0.53	0.51

経営の健全性を示す経常収支比率は、水道料金の減及び他会計繰入金の減による収益の減少に比べ、減価償却費の減及び動力費の減による費用の減少が上回ったため、前年度比0.58ポイント増の108.47%となり、健全経営の水準とされる100%を上回っています。

資産の老朽度を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比1.10ポイント増の46.37%、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比1.05ポイント増の34.09%となり施設の老朽化が進んでいます。

当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、漏水等の影響が大きい大口径の基幹管路の優先的な更新を進めたことにより、前年度比0.02ポイント減の0.51%となりました。